

9.

北陸およびその近隣地方のアザミ類の分類学的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47806

2. アザミの頭花を利用する昆虫相

アザミの頭花には、ゴボウゾウムシ属 (*Larinus*) のゾウムシやミバエ類のように、頭花に産卵し、羽化までその内部で生育する特有の昆虫相が成立している。本研究では、アザミ類とこれらの頭花を食害するスペシャリストの間にみられる相互関係、資源をめぐる昆虫類のギルド構造の解析を進めている。

これらの研究材料として、アザミ類を山陰、近畿、北陸、中部地方から多数採集し、本植物園内で植木鉢 (約100鉢) および地植えにして栽培している。またヤマトアザミテントウの食草であるハシリドコロ (*Scopolia japonica*, ナス科)、オオマルバノホロシ (*S. megacarpum*)、ルイヨウボタン (*Caulophyllum robustum*, メギ科) も栽培している。

(中村浩二・山下水緒・中村晃規・福田剛 金沢大学理学部生物学科)

8. イタドリをめぐる植物-昆虫相互関係の生態学

イタドリ (*Polygonum cuspidatum*) は、タデ科の多年草であり、茎、特に葉柄基部に花外蜜腺をもち、そこにはアリ (や寄生蜂、カリバチなども) が誘引される。これらの昆虫が、蜜を利用するかわりにイタドリの害虫を駆除すると予想されているが、詳細な研究はない。筆者らは、イタドリの花外蜜腺の役割を解明するために、野外のイタドリ群落で観察、操作実験を行うとともに、本植物園においてイタドリ種子を播種し、えられた実生を鉢植えで育て、イタドリの生長とそれにとまなう花外蜜腺の形成と分泌を記録した。現在栽培中のイタドリ個体は、これからも継続観察するとともに、一部は野外のイタドリ群落に配置して、実験に用いる予定である。

(中村浩二・藤田尚人 金沢大学理学部生物学科)

9. 北陸およびその近隣地方のアザミ類の分類学的研究

7の研究と関連し、表記のテーマで研究が進められており、園内にアザミ類の生株が相当数栽培されている。今年度の研究成果「北陸地方およびその近隣地域のアザミ属植物の分類学的研究 (1)ホッコクアザミについて」が植物地理・分類研究42巻1号に印刷中である。

(横山俊一 福井大学教育学部、清水建美・山下水緒 金沢大学理学部生物学科)